



いくぞ！万博！

4月13日に大阪府で大阪・関西万博がスタートしました。日本では20年ぶりの開催となる万博は、世界中から人々が訪れ、新しい技術や、それぞれの文化を紹介することで、私たちが将来進むべき道を考えていく催しものです。この大阪・関西万博に、対馬も参加します。今回は、対馬が万博に登場する理由や、対馬から発信するテーマとその内容についてご紹介します。



©NPO法人ZERI JAPAN

いのち輝く未来社会のデザイン

「人類の進歩と調和」をテーマに、昭和45年に行われた日本初の万博「大阪万博」から55年、日本で6回目となる「大阪・関西万博」が4月13日にスタートしました。

世界中から様々なヒトやモノが集まり、地球規模の課題に取り組むための英知を結集する万博で今回テーマに掲げているのは「いのち輝く未来社会のデザイン」。

私たちの命は、この世界の様々なものと互いにつながりあって成り立っていますが、自分勝手な考えを優先するあまり、地球に存在する多くの生き物や自然環境を傷つけてしまうこともあります。これから将来にわたり、いのち輝く社会を守っていくため、パビリオンやイベントをとおして、来場する人たちに体験し考えてもらい、その考える輪を全世界の人たちに広げるための起点となる場所が「大阪・関西万博」です。今回の万博は、会場だけでなく、インターネットを活用し、オンラインでも参加することができます。



期間中、世界中の人たちが訪れ、これからの未来を考える



大阪・関西万博
ホームページ

海から未来を考えるパビリオン

大阪・関西万博には、世界158の国・地域、9国際機関が参加を表明し、様々なパビリオンを出展しています。その中で、海をテーマに出展を行うのが「ブルーオーシャン・ドーム」です。自然環境や地域社会について活動を行う団体や個人が参加しているNPO法人ZERI JAPANが設置し、運営するドームでは、来場者は、海が抱える課題と私たちが未来に向けて行うべき行動について考えます。「海の蘇生」をテーマにし世界規模の海の危機について発信するパビリオンで、対馬市が共催パートナーとして、対馬の現状と未来への行動を発信することになりました。



3つのエリアで海のことを知るパビリオン

対馬の海が抱える問題とそれに取り組む姿は、世界のモデルになります

生物界には「廃棄物」というものが存在しません。様々な生き物が集まり、それぞれの役割を果たすことで、全てが何かの、誰かの役に立つものになっていきます。一方、プラスチックなど私たち人類が出したごみによって海は汚れ、人間の活動によって、地球は危機に瀕しています。私たちの団体は、全ての資源を循環させ「廃棄物」をゼロにしようという考えで活動し、今回万博に出展して、この取り組みを全世界に発信します。対馬の現状は、私たちの取り組みにとってとても大きな意味を持ちます。大量の海ごみが流れ着き、その問題を解決するために模索を続ける姿は、これからの人類の進む道にとって、示唆に富んでいます。

対馬の人たちは、歴史の至る所で、海を通じて世界とつながり、課題解決を図ってきました。そしてその行動が、実は、日本や世界の歴史で重要な意味を持っていたことがたくさんあります。

今、対馬の人だけでなく、日本や世界中の人たちが、対馬を起点に課題解決に向けて動き出しています。対馬での課題を解決することで、地球規模の環境問題の解決に向けたモデルになりうるからです。

6月には、この「ブルーオーシャン・ドーム」から対馬の現状や取り組みを発信し、ともに考える「対馬ウィーク」を開催します。ぜひ、この取り組みに参加していただき、対馬から世界を動かすきっかけにしてほしいと思います。

NPO法人ZERI JAPAN



理事
代島 裕世さん

対馬をテーマに1週間にわたり情報を発信

会場は紙管でできたドームC



提供：NPO法人ZERI JAPAN

期間中、海に関する展示のほか、海の保全や繁栄の実現に向けた発表やシンポジウムなどが行われますが、その中で自治体単位では唯一、対馬市が1週間かけて、対馬の現状と海の未来についての発信を行います。

対馬ウィーク

「東アジア津梁の島・対馬とともに願う海の未来」

開催日：令和7年6月16日(月)～6月22日(日)

開催場所：ブルーオーシャン・ドーム DOME C 叡智

催事内容：ステージでのトークセッション

大型モニターによる映像表現、展示

神々の住む島を目指す2050年の姿

神話の中で神が生んだ島の一つとして登場する対馬は、古来から大陸と日本列島との橋渡しを行ってきました。さらに、豊かな森を持つ島を取り巻く海は、海中に棲む多くの生き物を育むゆりかごとして存在し、その結果豊富な水産資源に恵まれた島として、人々に恵みを与えてきました。

神々の時代から長い年月を経た今、海の恩恵を受けた人類の発展の裏側で、対馬には大量の海ごみが漂着し、海洋環境の変化による海藻の消滅など、対馬の海は危機に瀕しています。対馬ウィークは、対馬の海や環境に関しての情報発信を通して、対馬の現状を知り、これまで海から受けてきた恩恵にどのように報いるのかを考え、未来の姿を想像する7日間です。



対馬ウィークに登場するキャラクター
海の神さま「おとーしゃ」

キャラクターデザイン：金沢美術工芸大学

対馬内外での取り組みを発表し、語り合う7日間

- Day1 6月16日(月) 日韓海洋環境シンポジウム
- Day2 6月17日(火) 日米海洋環境シンポジウム
- Day3 6月18日(水) 「対馬モデル」～対馬、関西から未来の循環型社会を示す～
- Day4 6月19日(木) 海の未来に貢献する企業の取り組み
- Day5 6月20日(金) 海の未来を拓く力～対馬ブルーカレッジでの学びと事業構想～
- Day6 6月21日(土) 美しい海を未来へ
- Day7 6月22日(日) 対馬ウィーク クロージングセッション

海ごみをきっかけにした縁でつながった中学生の発表

対馬で回収された海ごみのうち、ポリタンクをリサイクルしてボックスやかごを製造するメーカーが奈良県生駒市内にあることがきっかけとなり、6日目には西部中学校と生駒市立光明中学校の生徒たちが、便利な暮らしも海の美しさも両立する未来社会について考えを発表します。

対馬に漂着したポリタンクを
使用して作った買い物かご



対馬SDGsパートナーでもある株式会社リングスター製
万博の会場内にあるオフィシャルストアでも1200個の買い物かごが使用されています！

環境の違う中学生が考える未来



オンライン上で、お互いの意見を発表する生徒たち

いくぞ、万博！

意気込みを聞きました！

西部中学校の2年生9人は、1年生の2学期から、生駒市立光明中学校の生徒とオンラインでお互いの地域の課題について意見を交わしてきました。

まず、西部中の生徒たちが対馬の海ごみの現状や解決のためのアイデアを、海のない光明中の生徒たちに伝えました。「海がないからこそもっとごみのことに気を付けないといけない」と、海ごみのことを自分のこととして捉えなおした光明中の生徒たちは、ゲームやお祭りなど楽しみの中で海ごみの問題を知り、ごみを減らすきっかけを作ろうと、都市部ならではの発想で解決策を提案。お互いが暮らす環境の違いから多くの気づきを得ました。6月21日に万博会場で初めて対面する生徒たちは、未来に向かってどのような意見を交わすのでしょうか。



草葉 優斗さん

自分の意見を、海ごみ問題で活動する人に知ってもらい、理解してもらいたいです。



小松 潤さん

対馬の海の美しさと、その海が危機に瀕していることを伝えたいです。



神谷 悠聖さん

対馬の海ごみの問題について、多くの人に知ってもらえるように頑張ります。

海ごみでたくさんの方が困っているの、多くの方がごみを無くすために考えたり、行動してもらえるように伝えていきたいです。



須川 香里奈さん

SDGsや海ごみについて私たちの考えを伝えるだけでなく、相手の考えを聞いて、交流しながら考えていきたいです。



須川 佑月さん

海ごみについて、一人一人が考えて、ごみをなくす行動を取ってもらえるような発表をしたいです。



阿比留 歩美さん



米田 諒聖さん

対馬の海ごみのことだけでなく、対馬には、たくさん良いところがあることも伝えていきたいです。



永留 麻菜穂さん

対馬の海についてまとめたことをさらに深めて、このことをたくさんの人たちに伝えたいです。



江口 湊さん

対馬の現状を知ってもらいたいし、他の地域でも同じ問題があることを、わかりやすく伝えたいです。

対馬の思いを万博から世界に発信します！

世界中の人々が会場で、そしてオンラインでつながる大阪・関西万博。世界の英知が集まるこの場所で、対馬の今、そして50年後の未来を考える大変貴重な機会に恵まれました。市民の皆さんも、会場やオンラインでご参加いただき、対馬を世界に発信しましょう！



ブルーオーシャン・ドーム
ホームページ